

## 「明日から活かせる歯周治療の基礎知識」

### 「ウーマンズオーラルヘルス ～女性ホルモンと歯周病～」

日時：令和3年1月31日(日)

場所：ステーションコンファレンス東京6階605BC、Web 併催

講師：坂井 雅子先生、川本 亜紀先生



岡田 淳 (栃木県)



今回の特別研修会は、緊急事態宣言を受けて、急遽ライブ配信のみの開催となりました。開催直前の変更となりましたが、Doctorbookの杉田先生により安定した通信環境をご提供いただき、滞りなく開催されましたことをご報告いたします。

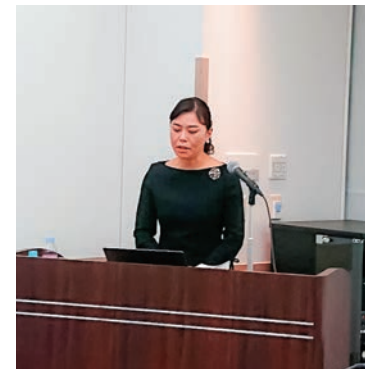
今回は、毎年恒例の歯科衛生士を対象とした研修会が開催され、講師として日本大学歯学部附属歯科病院より、坂井 雅子先生、川本 亜紀先生の御二方をお招き致しました。

まず、坂井先生からは「明日から活かせる歯周治療の基礎知識」と題して、基本的な事柄を中心に明日から使える様々な知識や技術的なポイントをレクチャーいただきました。

歯周治療はチーム医療であり、その成功には歯科衛生士の活躍が欠かせません。今回の講義では、歯周治療の流れに沿って各治療ステージにおける歯科衛生士の果たすべき役割、歯周基本治療を成功させるポイント、メンテナンス・SPT の実際についてお話いただきました。とくにセルフケアの上達のためには、「し」の付く(主訴・歯列・習慣・心理・歯垢・手技・身体活動・職業・職種・私生活・趣味・新情報など)情報を理解して臨むことが重要

であることをお話いただきました。また、TBIを行う上で、患者のタイプには6通りのタイプがあり、モチベーションと手技の面から評価することが重要であることをお話されました。そして、セルフケアの改善のためには、情報を収集し、問題点を抽出・分析し、目標を設定した計画を立て、指導を実施し、それをさらに評価するといったPDCAサイクルが最も大切であることもお話されました。セルフケアの改善は、歯周治療において最も重要なことである一方、大変難しい場面に遭遇することもあり、歯科衛生士にとっては、明日から使える大変有用な講義となりました。

川本先生からは「ウーマンズオーラルヘルス ～女性ホルモンと歯周病～」と題して、女性特有の身体的特徴が、どのように歯周疾患と関連するのかという、普段とは異なる切り口の講義をいただきました。「女性は男性より歯磨きの回数が多く、さらには、歯科の受診が多いにも関わらず、最終的には男性の方が女性より残存歯数が多いというのは何が原因なのか？」という理由の一つに、女性ホルモンの変化が歯周病に影響を与えている可能性があることをお話されました。



女性ホルモンであるエストロゲンは P.intermedia の活動性を高め、一方、プロゲステロンはプロスタグランジンの誘発を引き起こす。そうした女性特有の身体的特徴と歯周疾患との関連が強く示唆される「月経周期関連歯肉炎」について、実際の症例を交えて、大変分かりやすく抗議をいただきました。とくに、そうした症例においては、月経周期に応じて口腔内の炎症所見が異なるため、女性ホルモンの分泌の多い「排卵直前や月経直前の治療は避ける」といったアポイントに配慮する必要があることをお話されました。

また、妊娠期においては女性ホルモンが通常の10倍近くになり、また胎児のために母親の免疫システムが抑制されていることから炎症が生じやすいこと、治療を行う場合には妊娠前期と後期は避け、中期に行うことが望ましいことをお話されました。

そして、更年期においては女性ホルモンの分泌が低下することにより、口腔内にも様々な変化(歯肉の炎症・歯槽骨吸収・歯肉退縮量の増加・歯肉、粘膜の菲薄化、口腔乾燥、灼熱感など)が生じることがあり、そうした場合の TBI のポイントやサプリメント(エクオール：エストロゲンに似た化学構造を持つ大

豆イソフラボン)の応用などをお話いただきました。

私自身、女性特有の身体的特徴に焦点を当てた今回のような講義を聞くことは、初めての機会であり、普段そうしたことを意識しながら臨床に臨んだことが皆無であったことから、新しい知見を得ることができた大変有意義な講義であったと感じました。

お二人の先生方からは明日からの臨床に役立つ大変有用な情報をたくさんいただくことができました。ご覧になられた先生方、歯科衛生士の皆様の臨床にお役立ていただくことを祈念し、稿を終えたいと思います。